

限界があるので、目的を明確にした調査・研究で補うことが望ましい。通常行うアンケート調査の予防行動に関するデータを用いて、2回目より複数回受検者で改善しているかどうかを調べることができる。また、検査・相談の前後の質問票に同一項目を入れて知識の変化を評価することができる。

検査・相談やエイズの理解促進への効果

は、エイズの医療や社会支援など一般知識の増加、受検経験者から紹介された受検者数などで計れる。また、広く県民、市民を対象としたアンケート調査の機会があれば、検査相談の利用経験、事業の周知度やエイズの一般的知識・意識を調査項目に加え、事業効果を調査することもできる。

表4

HIV検査・相談事業評価項目の概要

	項目	意義・細項目等
受検者特性評価 (検査説明相談前調査)	性別	地域特性
	年代	地域特性
	今回の受検理由・時期	心配する感染経路
	過去1年間コンドーム使用頻度	感染予防習慣
	検査回数・場所	受検行動
	相談相手の有無	陽性時の支援者
	検査・相談サービス情報の入手源	広報など施策との照合
HIV即日検査・相談サービスの質評価 (検査説明相談後調査)	申し込み受付に対して	受検者の満足度
	検査相談サービス・態度に対して	受検者の満足度
	プライバシー保護について	受検者の満足度
	有用知識・手段の獲得	説明・資料の分かりやすさ
	検査相談情報入手源・媒体	広報など施策との照合
	自発的検査・相談のパートナーへの普及	自発的検査・相談普及の可能性
	陽性者に対する医療機関等の紹介は適切か	サービスの質
感想・要望・期待	自由意見	
HIV即日検査・相談の効果評価	受検者数	受検者数の増加
	HIVエイズや検査・相談の知識と意識	知識・意識の改善
	心配する感染経路HIV感染予防行動	感染予防行動への効果
	陽性者の医療機関受診	早期受診効果